

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	綾田 早笑	学校名	宮城県仙台市立福室小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	6年2組（27名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2025年7月～2026年1月（7時間）		

【実践概要】

1. 単元(活動)名 「人に出会う・夢に出会う」 自分の生き方を考えよう ～ザンビアとの出会いを通して～							
2. 単元目標 単元目標： 多様な人々と協力し合い、よりよい社会を築くために、知ることを通して自分の課題や社会の課題に気付く重要性を理解することができる。また、これからの未来をどのように生き、どのように社会に関わっていけばよいか、自己の生き方について考え、行動しようとする態度を養う。 関連する学習指導要領上の目標： ・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。 （総合的な学習の時間） ・みんなで協力し合ってよりよい社会をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。 ・他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。 （特別の教科 道徳）							
3. 単元の評価規準	<table border="1"> <tr> <td>①知識及び技能</td> <td>世界には多様な文化や価値観があることを理解している。</td> </tr> <tr> <td>②思考力、判断力、表現力等</td> <td>様々な国の文化や人の生き方を参考に、よりよい社会を築くために必要なことや自己の生き方について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>③主体的に学習に取り組む態度</td> <td>これからの未来をどのように生きていきたいかについて、他者との対話や協働を通して、自分の考えを深めようとしていようとしている。</td> </tr> </table>	①知識及び技能	世界には多様な文化や価値観があることを理解している。	②思考力、判断力、表現力等	様々な国の文化や人の生き方を参考に、よりよい社会を築くために必要なことや自己の生き方について考えることができる。	③主体的に学習に取り組む態度	これからの未来をどのように生きていきたいかについて、他者との対話や協働を通して、自分の考えを深めようとしていようとしている。
①知識及び技能	世界には多様な文化や価値観があることを理解している。						
②思考力、判断力、表現力等	様々な国の文化や人の生き方を参考に、よりよい社会を築くために必要なことや自己の生き方について考えることができる。						
③主体的に学習に取り組む態度	これからの未来をどのように生きていきたいかについて、他者との対話や協働を通して、自分の考えを深めようとしていようとしている。						
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>世界は、今後ますますグローバル化が進むと予想される。児童が大人になる頃には、国内外を問わず多様な文化や価値観が混在する中で活動することが一層日常的なものとなる。このような社会の中で生きるには、互いの文化や個性を尊重し、誰かを排除することなく対話を通じて協働できる力が不可欠だ。そのためには、やはり「人との出会い」というものは重要だと考える。世界には多様な文化や価値観があることを知るとともに、それを自然なこととして受け止める心を育みたい。また、「知る」大切さを学ぶとともに、児童がさらに視野</p>						

を広げ、今後の自分の生き方について考えるきっかけとなるようにしたいと思い、本単元を設定した。

【単元の意義】

ザンビア共和国に渡航する前に、本学級の児童に行った事前アンケートで半数以上が「外国人が国内に増えるのは不安と感じる」と回答した。これは、情報源がインターネットやSNS中心であること、あるいは「知らないこと」への不安や思い込みが背景にあると考えられる。不安はあって当然であるが、「知る（学ぶ）」ということで、「知らないこと」から来る不安を解消できることを学ばせられる。また、日本とザンビアの相違点を知ることや他者との対話を通して、文化や価値観の多様性は自然なことであることに気付くことができる。その上で、他者とどのように共生していけばよいのかを考えられることが本単元の意義である。

【児童観】

児童はこれまでの総合的な学習の時間（テーマ：「人に出会う・夢に出会う」）を通して、本単元の学習基盤となる重要な力を育んできている。1学期の～会津若松を通して～では、実際に会津若松市に行き、人と関わる（知る）という体験を通して、地域の魅力や共に活動する友達の良さを見出すことができた。2学期の～スチューデントシティを通して～では、仮想社会での会社経営や生活体験を通して、相手のことを考えたり、自分の会社のことを考えたりと互いの立場を考えて行動する大切さを学んだ。また、皆で話し合い、協力して課題を乗り越える大切さを学んだ。これにより、社会が互いに支え合って成立している構造を理解するとともに、交流の少なかった友達とも積極的に対話するコミュニケーション能力の向上が見られた。

【教材観】

実際に担任が現地で得てきた写真や動画を見たり、ザンビアのグッズに触れたりすることでザンビアという国を身近に感じながら学習することができる。授業では、児童同士の対話の時間を多く取り入れるため、多様な価値に触れられる機会となる。対話活動が単なる意見交換ではなく、主張と折り合いを付けなければならない答えのない題材になっている。

【指導観】

指導にあたり、日本とザンビアの生活や文化を比較する際は、優劣ではなく「自然な多様性」として捉えることができるように配慮する。また、ザンビアの社会課題に対して、自分事として捉えられるようにザンビアの人からの相談事をミッションカードにしたり、人物カードを使用したりして、工夫して指導する。これまでの学びで得た「知る」ことの良さを、ザンビアをはじめ世界の国々、身近な人々に対しても生かせるようにしたい。本単元を通して、「知る（学ぶ）」面白さに気付き、学習意欲を高めるとともに、異文化や多様な価値

	観を持つ他者との交流を楽しむことのできる児童の育成を目指す。また、よりよい社会を築くために自分ができることを具体的に考え、行動できる力を育成したい。		
5. 単元計画 (全 7 時間)			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
事前 渡航前 渡航後	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアについて ・自分の気持ちについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを取る。 「ザンビアについて気になること」 「何のために勉強をするのか」 「これからの未来をどのように生きたいか」 これまでの総合的な学習の時間で学んだことを踏まえて今の気持ちを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート① ・ワークシート②
1	<ul style="list-style-type: none"> 『世界について知ろう』 ・世界の実情について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAR 開発教育教材「世界がもし 100 人の村だったら」を使用し、世界の人口の変化や大陸ごとの人口の分布や密度、貧富の差について疑似体験しながら学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAR 開発教育教材 ・役割カード ・椅子、紙 ・振り返りシート
2 3	<ul style="list-style-type: none"> 『ザンビアについて知ろう』 ・日本とは違う生活があることについて知り、互いの良さについて考える。 ・話を聞く前と後のザンビアに対するイメージの相違から「知る」ことの大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「不平等」じゃない世界って？ 自分にとっての幸せについて考え、友達と共有する。 ・教師の体験談を聞いたり、現地で撮った写真や動画を見たりして、ザンビアの生活について知る。 ・日本とザンビアの共通点や相違点、両国の良い面や課題面について伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画 ・ザンビアグッズ (シマ棒、国旗、マラカス、チテング等) ・振り返りシート
4	<ul style="list-style-type: none"> 『“ちがい”について考えよう』 ・他人事ではなく、「同じ地球市民として」という視点で考えることができる。 ・互いの価値観の違いに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とザンビアの生活環境や文化の違いを示したカードを使って、グループで話し合い、「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分類する。 ・話し合いの中で、一番迷った／不平等さを感じたカードについて全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちがいのちがいカード 16 種類 ・Y チャートシート ・振り返りシート
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 『課題とどう向き合うか考えよう』 ・互いの価値観が違うことを踏まえ、どのように協働して、課題と向き合うかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパウンドの問題点を知る。 ・住民の思いを知る。 ・座標軸を使って、もし自分がその地域の住民だったら、どの問題から取り組むかをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と動画 ・ミッションカード ・住民の声カード ・振り返りシート

		<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するためには、互いの願いを共有し、立場を超えて知恵と力を出し合うことが大事だということを知る。 	
6	『地球市民の一員としてどう生きるか』 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと／力を付けることでできることが増えることに気付く。 ・よりよい社会を築くために、自分はどのようにすべきか、何ができるかを考え、行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力とは何か知る。 ・JICA や NGO がザンビアで取り組んでいる活動について知る。 ・日本人スタッフがどんな思いや考えを持って働いているのかを知り、将来の自分の生き方のヒントにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地とオンラインをつなぐ ・振り返りシート
7	『これからどう生きるか考えよう』	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートを取る。 「何のために勉強をするのか」 「これからどう生きたいか」 	・ワークシート②

6. 本時の展開（5時間目） 本時のねらい：互いの価値観が違うことを踏まえ、どのように協働して、課題と向き合うかを考えることができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 5分	1. これまでの学習を振り返る。 ○前回の「“ちがい”について考えよう」で“ちがい”について考えましたね。ちがいと言っても種類がありました。 <ul style="list-style-type: none"> ・あっていいちがいとダメなちがい。 ・受け入れるちがいと課題のちがい ○課題のちがいでいちばん不平等さを感じたことはどんなことですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんとしたトイレがないこと。不衛生すぎて心配になる。 ・ごみを分別しないから、環境にも悪い。 ・学校に通えないこと。 ・12歳で結婚しないとイケないこと。 ・日本はボタンを押せば電気が通るのに、ザンビアは4時間しか通らないこと。 ・ザンビアは進化が遅いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習で児童が感じてきたことを本時につなげられるように、児童の感想を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「“ちがい”について考えよう」の児童の振り返りシート

<p>展開 35分</p>	<p>2. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題とどう向き合うか考えよう。</p> </div> <p>3. コンパウンドの問題について知る。</p> <p>○子供達の住んでいるところを見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごいところに住んでいる。 ・道路がひどい。 ・汚い。 <p>○よりよい生活を送れるようにするために、みんながここに住む住民だったら何から取り組めますか？</p> <p>○5つのうち、まず何から取り組めばよいと思いますか。自分の考えを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道→命に関わることだから。 ・ごみ→これならすぐにできそう。 <p>(条件、コンパウンドの詳しい情報、住民の声を伝える。)</p> <p>4. グループで優先順位を考える。</p> <p>○どのプロジェクトから取り組めばよいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路→けがをしたり、病気になったりしている人もいるから。電気がなくても安心して歩けるようになる。病気がなくなって死ぬ人が少なくなる。外部から人も来やすい。活動できる人が増えてできることが増える。道路を作る技術を教えられる。 ・教育→大人も子どもも教育を受ければ仕事をしてお金を稼げるようになる。収入が増えれば子どもを学校に行かせられるし、子どもが働かなくてもすむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地の様子が伝わりやすいように動画を使用する。 ・ ザンビアの人からの相談事をミッションとすることでやる気を持って課題に取り組めるようにする。 ・ 条件や詳細情報を加え短絡的な考えにならないようにする。 ・ 様々な人物の思いを基に、多面的にコンパウンドの問題に向き合えるようにする。 ・ 授業を参観する先生方も大人の住民として意見を述べてもらう。 ・ ザンビア人の立場に立って、課題について考えられるように声掛けする。 ・ 技術とお金の援助がもらえるなら、それを活用してどう発展につながるか、考えに揺さぶりをかけられるように声掛けをする。 ・ 選んだプロジェクトによって、他にどのような波及効果があるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパウンドの動画 ・ ミッションカード ・ 振り返りシート ・ コンパウンドの写真 ・ 住民の声カード
-------------------	--	---	--

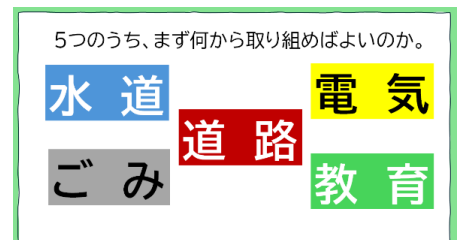
<p>まとめ 5分</p>	<p>○「よりよい生活」とはということなのか？ 一つのプロジェクトに取り組むことで、他の事とどう関連があるのかも考えてみよう。</p> <p>5. 全体で共有する。</p> <p>○グループで出た意見を伝え合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道→水道を整備することで、いろいろな病気がなくなり、井戸に水くみに行く手間がなくなる。学校に行けるようになったり、畑を作って食べ物を育てたりすることができる。未来が明るくなる。 <p>6. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話 「よりよい生活を送るために大事なこと」とは何か？豊かになること？お金をたくさん稼ぐこと？便利になること？みんなで「こういう地域にしたい」という思い。そして、それに向かってみんなで考えて、意見を出して、協力することだと思う。 ・自分の周りに目を向けると課題がたくさんありますね。例えば、「よりよい福室小にするためには？」「よりよいクラスにするには？」どう向き合っていっていいのかな。 ・今どんな課題があるのか気付くこと、未来を想像することも大事だね。 ・振り返りをする。 	<p>にも考えを巡らせられるように声掛けする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート
-------------------	---	-----------------------------	--

7. 本時の振り返り

○テーマについて

本時の授業を計画する上で一番悩んだのが、授業内容とゴールである。本時の中心となる活動は、ザンビアのコンパウンドの抱える課題について話し合うことである。しかし、ザンビアの課題は、日本の子供たちにとって実感を伴いにくく、想像すること

さえ難しい内容である。そのため、児童は果たしてザンビア人々の立場に立って考え、意味のある話し合いが成立するのか、単なる空想的で表面的な話し合いで終わってしまうのではないかと危惧していた。しかし、前時までの積み重ねがあったことで、児童はザンビアの人々の状況や立場を考えながら話し合いを進めることができていた。話し合いの中で、教育を選んだグループが、「水道も大事だけど、それよりも水のろ過の仕方や水道の直し方を学校で教えてもらった方がいいんじゃないか。」
「道路を直すことで、外部から人が入って来やすくなり、いろんな支援を受けられるのではないか。住民も外に出ていきやすくなるし、子供も安全に学校に行ける。」「水道から取り組めば、畑を耕して

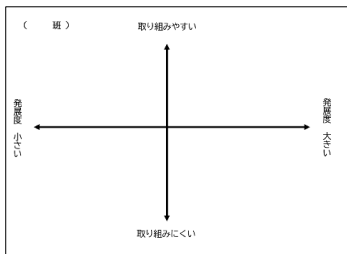


野菜も作れるし、それで収入も得られる。」などと、これまでの自分の経験や知識を生かしたり、他の課題と関連させながら考えたりする姿が見られた。この姿を見て、子供たちのこれからの未来も予想がつかないものかもしれないが、今回の授業のように想像力を働かせて課題に向き合う力があると感じた。

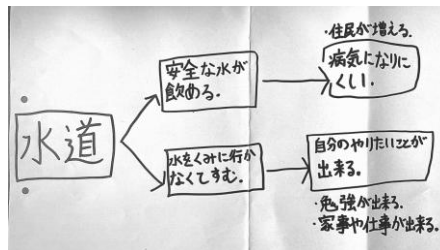
○ワークシートについて

優先順位を決める際に思考を整理するためのワークシートについて、児童がどのような形式であれば考えをまとめやすいのか何度も検討した。下記資料①から③へとワークシートを改良した。①の形式では、初めて座標軸を使用したことに加え、「発展度」「取り組みやすい」といった抽象的な語句の理解が難しく、児童にとって何を基準に判断すればよいのかがあいまいであった。次に②の形式では、一つの課題から派生して解決できる課題を広げていくことはできたものの、他の課題との関連に気づきにくいという課題があった。課題同士のつながりを俯瞰して捉えるには、と最終的に③の形式にした。また、補足資料として④の考え方、⑤発表の仕方カードを例示した。

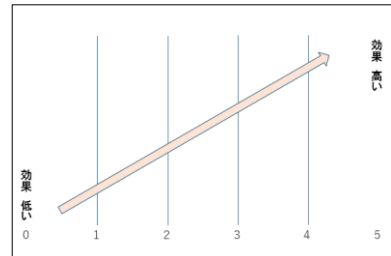
①



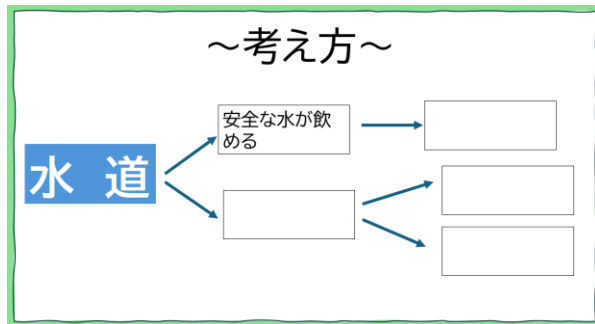
②



③



④



⑤

<発表カード 例>

①私たち()班は、 プロジェクトから取り組みます。

②理由

(1) 選んだ理由
水道を作ること、OOができるようになる。他にも…
道路を整備することで、暮らしがOOになる。
もし電気が通ると、
もしゴミがあらわれている状態だったら、

(2) 選ばない理由
もし水道ができて、OOな問題が起こる。

一つのプロジェクトを選んでも、必ず他のプロジェクトと関わりがあるはず！
関連を見つけて、つなげて考えよう。

○本時のゴール

本時のゴールとして、「自分ごととして考えてほしい」という思いが強く、授業の振り返りで「では、よりよい福室小にするためには」という視点で考えさせた。しかし、ザンビアの課題と学校の課題では性質が異なり、特に学校の課題は内面的なものであり、同列に考えるのは難しいという助言をいただいた。本時のゴールは素直に授業を行った感想でよかったと思った。

○グッズの展示

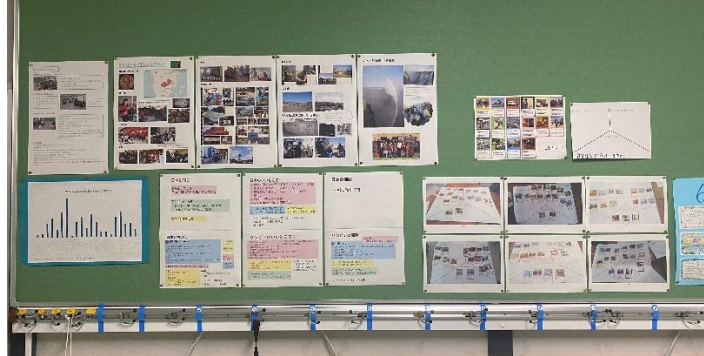
6学年の廊下にザンビアグッズを展示した。教科書やユニフォーム、通貨、菓子、国旗、チテンゲなどを置き、いつでも手に取れるようにした。他学年の児童も興味を示す姿が見られた。

○掲示による学びの共有

6学年3学級で授業を実施したので、他の学級ではどのような意見が出たのか、学びを共有できるようにし、多様な考えに触れられるようにした。



<ザンビアグッズコーナー>



<学びの跡>

【自己評価】

<p>10. 苦労した点</p>	<p>「ザンビアについて知ろう」では、伝えたいことが多すぎて、内容をしぼることに苦労した。結果として、大量の情報を一方的に伝えることが多くなり、児童が聞くだけの授業になってしまった。児童が話を聞いて、「へえ～」で終わらず、もっとザンビアを楽しめる体験やよりザンビアを身近に感じられる取り組み行えればよかった。</p>
<p>11. 改善点</p>	<p>「かわいそう」「大変だ」「日本は恵まれていると改めて思った」「募金したい」という感想が児童から何度も出たが、この感想から一歩先へと考えを深める授業を組み立てることができなかった。より踏み込んで「どうして国によって状況にちがいがいいのか」といった、“なぜ？”の問いに向き合う時間を設けたり、「募金をしたい」と考えた児童に対して、どこへ、何のために募金をするのかを考える機会をつくったりすれば、より実りある学びにつながったのではないかと感じている。思考を発展させるための問いかけや導き、そしてそれらをつなげていく授業展開が十分にできなかったことは、今後の改善点である。また、「知った」で終わらせず、学んだことを基に行動へとつなげる機会を設けることの重要性にも改めて気づかされた。</p>
<p>12. 成果が出た点</p>	<p>単元を通して、児童が世界に目を向けるきっかけづくりができたことが大きな成果だ。そのことを通して、児童の心、考え方に変化が出たことがうれしい。</p> <p>児童の変容① 海外ってちょっとおもしろいかも？</p> <p>A: 授業の前は他の国には興味がなかったがザンビアについて勉強していったら「他の国はどんな感じなんだろう」と興味を持った。</p> <p>B: 世界のことをしっかり深くまで学習する機会はあまりなかったから、外国のことを知れるのは興味があった。</p>

C:授業を受ける前まで関心を持っていなかった世界のニュースにもちゃんと目を向けてみようと思った。

児童の変容② 未来の社会について

本授業が始まる前、本学級の児童に行った事前アンケートで半数以上が「今後、外国人が国内に増えるのは不安と感じる」と回答した。それが、事後アンケートでは、質問項目は違うものの、外国の人と接したり、一緒に生活、仕事をしたりすることになる未来の社会について、ポジティブな意見を持つ児童が多くなった。

<児童感想>

D:未来の社会は少し不安だけど、外国の人との交流などが楽しみになった。また、世界についてもっと知りたいという児童が増えた。

E:いろんな国の人と生活したり仕事したりすることが多くなるということはもっと外国のことを知ることになるし、いま外国から見た日本も知ることができるようになるということだと思うので、外国と生活や仕事をするのが多くなるのはとても素晴らしいと思いました、ですが、外国人はポイ捨てや写真を撮るために、道路の真ん中にいるなどの迷惑行為をするというニュースもたまにみるので、そういう点はだめだと思います。なのでルールを守ったうえでとても素晴らしい社会になると思います。

児童の変容③ 「自分のため→社会のために」

何のために働くのか、事前に聞いたところ、「お金のため」「生活するため」「自分のため」と自分に向いていた視点が「自分がしたいと思う仕事をするという考えから人々の役に立ちたいという考えに変わった。」と周りのためにという視点に変化した。

筆写 (11月 14日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

大人になって仕事をしたいから勉強したいから勉強するのだから。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

ゲームプログラマーで自分がいいゲームを作りたい。ゲームや他の人のアイデアが思いつくようにしたい。理由は自分や友達から受けてきたアドバイスやアイデアを参考にしたい。

筆写 (11月 14日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

自分の未来をよくするため。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

学生生活の勉強が楽しくないから勉強したい。理由は勉強が楽しくないから、でも勉強が楽しくなりたい。

筆写 (11月 14日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

将来の夢が実現できるようにするため。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

人に役立つ仕事をしたい。

筆写 (11月 20日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

大人になって社会を良くするために勉強したい。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

人の役に立つ仕事をしたい。理由は社会を良くするために勉強したい。理由は社会を良くするために勉強したい。

筆写 (11月 20日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

色んな人の未来をよくするため。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

色々な人を助けたい。理由はみんなが幸せになれるように勉強したい。理由はみんなが幸せになれるように勉強したい。

筆写 (11月 20日)

①何のために勉強をするのだからと書いていますか。

仕事で自分の力を発揮するため。

②これからの未来をどのように生きたいと書いていますか。

(将来の夢や、なぜその仕事をしたいと書いているのかなど)

人々の役に立つ大人になりたい。理由はみんなが幸せになれるように勉強したい。理由はみんなが幸せになれるように勉強したい。

児童の変容④ その他心の変化

F:外国の方は怖いのかなと思ったけどみんな優しいと思った。

G:最初ザンビアはまるで砂漠みたいな所だと思っていたけど動画や話を聞いていくうちにザンビアの人たちはとてもフレンドリーで素敵だなあとと思った。

H:自分の考え方、今までは多くの国で清潔な水が飲めたりするのが当たり前だと思っていたことがあるけれど、それが当たり前じゃないことを知ってなにかできることがないかを考えるようになった。

I:前までなんとなくで考えていたのですが、後の場合は真剣に考えなければなら
ないとなった。

J:外国には、あまり関心がなくて外国のどこかが戦争してるなーとしか思っていま
せんでしたが、ザンビアのことを知った時、外国にはとても貧しくて苦しい国が
あることを知りました。その時に僕は、ザンビアにしてあげれることはなにか
ないか、など外国に優しい感情が出ました。僕は外国にあまり興味がなかったのに
優しい感情が出たのです。

13. 学びの軌跡
(児童生徒の反
応・変化、感想文、
作文、ノートなど)

①世界について知ろう



- ・このまま人口が増えていって、食料や土地の取り合いになったりしたら、貧富の差などで戦いなどにならないか心配。
- ・国によってお金持ちか貧乏かが決まるのはいやだった。
- ・「なんでそんなに人や地域で差がうまれるのだろうか。みんなが平等に生活できないのはなぜか」と思った。
- ・小学校に行けない子やお金がない子など、世界にはいろいろな子がいるんだと思った。
- ・学校に行くことができるのは幸せ／嬉しいとより感じた。
- ・ぼくが知らないだけで、世界にはいろんな人がいることを知った。
- ・自分たちは、「当たり前のことをできない子がたくさんいる」って知っているのに、何もできないのがくやしい。
- ・家があることを当たり前に思ってしまった。でも当たり前って思っている物が全部当たり前ではないことが分かった。

②ザンビアについて知ろう



<日本とザンビアの相違点・共通点、課題>

日本と同じ

車が走っている
日本と同じ会社の車が走っている

同じものがある
トイレ、車、病院、学校、食べ物
ショッピングモール、算数

数字や計算の仕方

日本とちがう

衛生環境が整っていない

- 水
 - ・水が1つの家になくて、みんなで井戸水を使っている
 - ・水道→貯水タンク、水が少ない
- トイレ
 - ・トイレが岩や石、レンガできている、壁がない、あな
 - ・日本は個室のトイレ
- ゴミ
 - ・ゴミを分別していない、ゴミ山→藪やガラスの破片があって危険
 - ・道が汚い

73部族
ある

民族衣装が
ある

動物
そこら辺に

信号が
少ない

救急車が来てくれるか分からない/壊れている

学校

- ・地域の人が作った学校
- ・遊び方
- ・床で勉強
- ・チャイムの鳴らし方
- ・おはきではなくペットボトルのキャップを使う

食べ物

- ・シマなど見たことがないものばかり
- ・給食
- ・学校や生活が大変
- ・電気
- ・家の数

日本のいいところ♡

- ・自分の国だけを良くするだけでなく、他の国もよくしようとしているところ
- ・支援をたくさんしている（ゴミ山、病院）
- ・優しい
- ・病院に必要な物を支援
- ・とても離れた国にも国際協力

- ・ゴミの分別をしている
- ・とても清潔
- ・ゴミがちらばっていない
- ・安全にトイレができる

- ・インフラがしっかりしている、環境がいい
- ・日本車（中古車）を輸出
- ・家も最新

ザンビアのいいところ♡

- ・村のみんなで協力
- ・みんな楽しそう
- ・外国から来ても仲良くしている
- ・他国から来た人を歓迎している
- ・日本人とかそういうのを関係なく接してくれるところ
- ・差別なく接してくれる
- ・学校がないところでも学校をつくる人がいること

- ・フレンドリーでみんな仲良さそう
- ・明るくて元気な国

- ・工夫して生活したり、勉強したりしている
- ・再利用している
- ・お金がなくても工夫している

- ・おいしそうなお菓子を売っている
- ・学校に中学生もいる
- ・学校で楽しく学べる

- ・自然豊かで心地よさそう
- ・土地が広くて、いろいろなことができる

日本の課題

- ・AIに頼りすぎ

ザンビアの課題

生活が苦しい
日本の支援があっても貧しい

衛生面 ゴミ

- ・ゴミがたくさんあって、それが原因で病気になったりして危険
- ・ゴミを分別していない
- ・ゴミ処理所などを作ればよい
- ・ゴミ山をどうにかきれいにする、片付ける
- ・ゴミの量

- ・トイレが恥ずかしい（壁がない）
- ・トイレや風呂が壊れて汚い

- ・もっとたくさんの水がいる
- ・町以外に水やガス、電気が通っていない

- ・「行けたらいく」の救急車

③ちがいについて考えよう



不平等なカードの時に他の班の意見を聞いて
そういう考えもあるなと思った。
無理やりいかにせざるのまかせ
そうだなと思った。

文化や女性のちがいはしかたなく
と、人々の命に関することはあつては
いけないと感じた。特に平等かど
かは大切だと感じた。

パンパース：あまりいろんな人種のものがあつたら迷うから困るし、もし、ある人種のものだけ売れ残つたら、それは悲しい。

	<p>机：3人で1つの机を使うと教科書を広げられないから迷惑になる。／3人で座れば仲良くなるきっかけになっていい。</p> <p>結婚：好き同士ならいい。／勉強できなくなるからダメだ。</p>
<p>14. 授業者による自由記述</p>	<p>『伝えるのではなく、考えさせる』</p> <p>研修中、引率の先生からこの言葉をいただき、私の視界は一気に開けた。それまでの私は、「もっと子供たちに世界に目を向けてほしい、知ってほしい」という思いばかりで、なぜ知ってほしいのかということまで深く考えていなかった。私の役割は、ザンビアの情報をただ伝えることではなく、そこから「なぜだろう」「もしかして」と一緒に考える場をつくることなのだと学んだ。そこから、自分自身も様々な疑問を持てるようになり、自分の考えを広げるきっかけとなった。国によって置かれた状況がなぜ違うのかなど、「背景を考える」姿勢は、児童とともに大切にしていきたい視点である。この姿勢は、世界の問題だけでなく、身近な人と関わる時にも欠かせない。人の行動には必ず理由があり、表面だけを見て判断すると誤解が生まれやすい。たとえば、返事がそっけない子がいても、その裏には家庭での不安や体調の悪さなど、本人にはわからない事情があるかもしれない。相手の置かれた状況を想像することは、相手を尊重し、違いを受け入れる姿勢につながる。多様な価値観や環境をもつ人と共に生きるうえで、この想像力は欠くことのできない力だと感じている。この大切さをこれからも児童に伝えていきたい。</p>

参考資料：

『チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか？』

木下理仁著（旬報社）

『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第7版』DEAR 開発教育教材

【授業資料：③ “ちがい”について考えよう】

16枚のカード

【授業資料：⑤課題とどう向き合うか考えよう】

「人と出会う・夢に出会う」自分の生き方を考えよう～ザンビアを通して～ 5時間目

【ミッション】 よりよい生活を送れるようにするために
きみたちがここに住む住民だったら、何から取り組む？

▶選択肢 5つのうち、まず何から取り組めばよいのか。
「水道」「道路」「電気」「ごみ」「教育」

▶条件

- ・最初の3年間だけ、外国の援助団体から技術とお金を協力してもらえる。
- ・ただし、協力してもらえるのは、ひとつのプロジェクトだけ。
- ・10年後、この地域の生活がよくなっているようにするためには、どうすればいいだろう？

▶コンパウンド情報

- ・人口は2000人。その日限りの仕事や仕事をしていない大人が多い。その日一日を生きるのが精一杯の毎日。
- ・小さな子ども炭を売ったりして家の仕事を手伝っている。
- ・電気はこの家にも通っていない。夜はろうそくで過ごす。
- ・この地区にあった水道や水タンクはもう7年も壊れている。井戸は2カ所。みんなで使っている。
- ・半数以上の大人が携帯電話を持っている。
- ・学校まで4キロ。歩くと1時間かかる。

<住民の声>



ぼくは、水道がほしい。お母さんが毎日井戸に水くみに5回も行くんだ。だからその間、着の前面を見たり、家の手伝いをして、学校にはたまにしか行けない。学校に行くと勉強して、医者になるのが夢だよ。

1



友達と一緒に私も学校に通いたい。でもお母さんが、「学校まで遠いから早い時間に家を出ないといけないし、道だってこんなだから危ない。もう少し大きくなってからね」と言うの。

2



道路を直してほしい。雨期になると、ここら辺全部が水浸りするんだよ。ごみの穴やトイレの汚れた水が流れてきて、コレラっていう病気がはやるんだ。それで、毎年何人もの人が命を落とすんだ。

3



この前の夜、お父さんがこの穴に落ちてけがをしたんだよ。この地域にはごみを捨てる場所がなく、ここはゴミ捨て場にもなっていて、いつも臭いんだ。

4



衛生的な水が飲めるように水道を作ってほしいわ。この地域にある浅い井戸の水は、げりやせきりなどの病気の原因になって、子どもが学校で買ったって飲えてくれたの。

5



トイレはあるんだけど、みんなで使うトイレだし、電気もないから怖くていけない。真っ暗だと犯罪も起こりやすいんだ。

6